



東京タイムス抄譯  
 千八百七十七年十月十三日發兌  
 日本海關稅改正ノ事  
 社説  
 日本經濟論一斑  
 日本海關稅改正ノ事  
 日本經濟論一斑

大藏省  
翻譯課

4232



114  
A2315



社説

且ツ概シテ之ヲ言ヘハ駐在ノ功績アルモノトス然ルニ英國ハ  
未タ之ヲコテ満足セサルニヤ近頃其下院ニ議論ノ沸騰ヲ生シ  
タリ乃チ曰ク曠昔ハ公使ノ効用アリシモ今ヤ之ノナシ故ニ今  
日ニ之ヲ永續セシムルハ徒ニ冗費ヲ致スニ過スト難スルモノ  
アリ或ハ公使費途ノ過多ナルヲ鳴ラシテ其任職ヲ英帝ノ特遇  
スル寡少ノ人負ニ限ラン事ヲ主張スルモノアリ或ハ又嘗テ米  
國ニ於テ公使ハ在國宰相ノ代理タルニ過スレテ漸ク公使ノ効  
用ハ消滅シタリト云ヘル議論ヲ抵証シテ其得失ヲ喋々スルモ  
ノアリ或ハ首トシテ其費途節減ノ方畧ヲ唱フルモノアリ或ハ  
南亞米利加ノ諸共和國及ヒ耳斯曼國ノ諸小州ニ至ルマテ殊更  
ニ公使ヲ發遣スルハ餘計ナリト辨スルモノアリテ到底公使發

大正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈

遣ノ制ヲ難スニ外ニ  
嘗ニ米國ヲ於テモ亦此事ヲ冀スル論者アリテ云ヘラク公使登  
遣ノ制度ヲ廢停シ以テ彼我通常ノ公信ハ華威頓府ノ國政首  
直接ノ往復ヲ以テ之ヲ辨スルヲ得ヘシト極論シタリ今此論者  
ノ考案ニ依レハ公使差遣ノ制ヲ廢止スト虽氏國柄ニ依テハ持  
別ニ公使ヲ在留セシム乃チ日本支那ノ如キハ之ヲ駐劄セサル  
ヲ得サル場合アルモノト為ス蓋シ此論者ヲシテ斯ル特例ヲ立  
案セシメタルハ左マテ思慮セサルトモ解得スルヲ得ルカ故  
世人モ亦喋々セサル也然リ而シテ今若シ公使官ノ費用ヲ節減  
スルモノトセハ此減額ヲ以テ領事官ノ費途ニ供用セハ當ニ領  
事ノ効用ヲ増ス而已ナラス其國ヲ裨補スル所アルヤ論ヲ持  
ス是レ我輩カ未タ曾テ領事官費用節減ノ論ヲ聞知セサル所  
ナリ然レ我輩ハ敢テ公使ノ費途ヲ節省スルヲ可トスルニ非ス

唯之ヲ行ハント欲スル國アラハ米政府ノ轍ヲ蹈ンテ餘リ各番  
ニ陷ヒラサル様ニ注意アラント云フ而已  
米政府ノ公使及ヒ其他派出ノ官負許多アル其中ニ就キ亞細亞  
地方ニ在留セルモノハ兎角ニ歐洲諸國ノ派出員ト頗頗シ務テ  
對等ノ外貌ヲ飾ラント欲シタルヲ見テ我輩ノ歎息ニ堪ヘサル  
所ナリ試ニ思ヘ歐洲ノ大會ニ駐劄シタル英國公使ノ如キハ  
僅カニ其宿料ノ如キモノト虽氏之ヲ米國公使ニ以スレハ供用  
ノ金額遙カニ多シ又英國公使ハ到ル處皆至當ノ居館ヲ設ケサ  
ルハナレ仮令ハ支那ノ北京日本ノ東京ニ於ケルカ如シ而シテ  
北京駐劄ノ公使ハ俸給ノ外ニ年六千「ポンド」ノ給銀ヲ得又日本  
東京駐劄ノ公使モ年四千「ポンド」ヲ得ルナリ  
今若シ米政府ノ果シテ公使費途ノ節減ヲ決行シタルモノトセ  
ハ許多ノ外國派出員ヲ免黜シタルニ相違ナレ然レ其減省ノ金

額ノ幾分ハ費進ニ供充スベカラズ在互レク之ヲ利用スヘレ又  
英國ニ於テモ前キニ曷ル如ク議論紛々トシテ公使差遣ノ制  
ヲ非難スルモノ多シト雖モ到底此制度ヲ真ニ変更スルヲ能  
スレテ唯少シク其外貌ヲ改ムルニ止マルヘレ

社説

今ヤ英國製造ノ壞廢ニ瀕スルヲ以テ倫敦支那新報ノ記者ハ其  
製造者ノ迷夢ヲ攪破セント欲スルニ切ナリ蓋レ此危殆ヲ致セ  
ルハ畢竟製造者カ質造無値ノモノヲ製シテ強テ諸方ニ競賣  
以テ貿易ノ自由ヲ開達セント欲スルニ汲々タレハナリ今其記  
者々警醒ノ言ヲ見ルニ乃チ左ノ如シ

輓近我メンチエストル製品ノ質造拙點一ニシテ足ラズ或  
ハ巧ミニ其量目ヲ詐ハリ或ハ安リニ其品量ヲ張リ以テ世  
人ノ耳目ヲ眩惑スルノ所業アルカ故ニ仮令々今其製造者

ヲシテ新市場ヲ得セシムルノ好機會アリト雖モ之カ為メ  
ニ得ルヲ能ハサル而已ナラス却テ醜聲ヲ流布スル而已是  
レ實ニ痛歎スヘキ也然レ遂ニハ其製造ノ瓦解セント有ラ  
ント屢々之ヲ警戒スル所アリシモ断乎トシテ具耳ヲ掩フ  
ハ亦驚歎ノ至ナラスヤ

試ニ見ヨ米國輸出ノ日ニ月ニ支那ニ行ハレ随テ日ニ月ニ英國  
輸出ノ退縮スルハ何ニ由テ然リト為ス乎唯其經營ノ正邪曲直  
ニ由テ然ル而已故ニ我輩ハ秃筆四硯以テ經營ノ正經老實ニス  
ヘキヲ箴規スルヨリモ却テ秃筆四硯ノ實見ニ若サルアリト云  
ハン而已

日本海関税則改正ノ事

日本政府ハ輸出税額ヲ減シ輸入税額ヲ増サン事ヲ在東京ノ英國及ニ獨國ノ兩公使ニ通知シタリト「ヘラルド」新聞ニ登録シタリ而シテ此事ノ果シテ幾分ク根抵スル所アリト虽モ其詳細ノ理由ヲ記セサルカ故ヲ以テ我輩ハ「ヘラルド」記者カ未タ十分ノ探偵ヲ遂ケタルモノト思惟セサル也蓋シ日本政府ニ於テ此事ヲ通知シタルヤ尋常一般ノ陰密ノ比ニ非スレテ極メテ漏洩ナキヲ要シタルヘシ然レモ事ノ稍ニ行ハル、ヲ見ルニ至ラハ公然ト世上ニ告示スルコトアルヘシ且ツ我輩ハ兩公使カ其請フ所ヲ全ク肯諾スルカ或ハ其幾分ク肯諾スルカ豫シメ之ヲ測定スルコト能ハスト虽モ終始此事ニ注目シタル人ハ豫シメ其結局如何ヲ觀察スルヲ難シト為サルベシ

現ニ日本海関税則改正ノ事ニ於テ政府ノ切ニ之ヲ變

更セシムルハ能ク諒知スル所ニシテ先ツ第一ニハ外國條約ニ由テ偏ニ其輸入税額ヲ束縛限制シタルハ日本國獨立ノ体面ヲ毀傷セシメタルモノ、如シ且ツ此束縛ヲ蒙ルタルハ日本人民ヲシテ忍フヘカラサル曲事ナリト思考セシメタリ又第二ニハ日本ノ情勢ヲ察スレハ其税額ヲ變更スヘキ許多ノ理由アリ況ンヤ日本政府ハ保護政策ヲ奉行シタル國ニ於テ果シテ皆其功績アルヲ見テ就中米國ヲ之ニ倣テ以テ國內ノ百工製作ヲ慫慂誘掖セン事ヲ決断シタルニ於テラヤ又日本政府ノ歳入如何ヲ論スレハ或ハ不足ナシト為スヘケレ氏幾許々亦量為ノ間ニ於テ今回ノ改正ヲ促スモノ、如シ蓋シ日本政府ハ自由貿易ノ主義ヲ採ラスレテ尚ホ且ツ其海關税額ノ英國ヨリ少キヲ致セルハ抑モ何ニ由テ然ルヤ世ノ税額増加ヲ非トスル論者ニ向テ之ヲ問ハ、此輩ハ之ヲ辨スルヲ欲セ

スレテ唯假面ヲ被ハリ未タ之ヲ了知セスト云フニ外ナラス以上ニ云ヘル所ノ理由アルヲ以テ日本政府ノ本意ハ外國ノ束縛ヲ脱セン事ヲ切望セルヤ明カナリ去レハ今日マテ其政府ク外交上ニ於テ種々ノ處置ヲ施行シタルモ畢竟皆此故ヘアリテ然ルナリ  
ヘラルド記者ハ今回ノ事件ハ日本國ニ於テ完結スルナラント云ヒタシ氏我輩ヲ以テ之ヲ觀レハ然ラサルヘシ如何トナレハ此事件ヲ西公使マテ通知シタルニセヨ或ハ其手ヲ經由シテ各其本邦ニ通知シタルニセヨ孰レニシテモ此事ヲ日本政府ニ於テ發シタル上ハ各其本國ニ於テ意外ノ大議論ヲ發スルヤ之ヲ既位ニ徴シテ明々白々ナリ乃チ曩キニ外國驛遞ヲ開キタルカ如キハ其例ノ一ナリ且言フ初メ此事件ヲ直チニ米國政府ノ外務省ニ依頼スルヲ得ルニシメハ其成功ヲ見ルニ足ル理由アリ

如何トナレハ米國ノ如クハ日本ト貿易上ノ關係極メテ大ナル  
カ故ニ稅則上ノ事ハ又緻密ノ關係アレハナリ是故ニ我輩ハ此  
事件ノ斷判ハ恐クハ日本東京ニ於テセサルヲ信ス  
却説「ヘラルド」記者カ今回ノ事件ヲ持ニ英獨兩國ノミニ通知シ  
タリト記載シタルハ信スルニ足ラス如何トナレハ今若シ日本  
條約國中彼ニ重フシテ此ニ輕フシ輸入稅徵收ノ間ニ輕重アラ  
シメハ重キ者ハ素ヨリ其輕キヲ請求スルヲ得レハナリ然リ而  
シテ我輩ヲ以テ之ヲ觀レハ西公使ハ既ニ此事件ノ報知ニ与  
リタルニ相違ナク且ツ其他ノ公使モ亦不日之ヲ報知ヲ受クヘ  
シ又嘗テ日本公使ヨリ締盟ノ諸國ニ豫シメ其意匠ヲ通シ置キ  
タルトト思ハル、也果シテ然ラハ東京横濱ニ在留セル各國公  
使中或ハ既ニ其報道ヲ受ケタル者アルヘシ又未ク受ケル者  
ト雖モ不日日本政府ハ之ヲ報スヘシ抑モ日本輸出稅ノ制漸ク

弛廢シテ現時ハ全ク壞敗シタルモノ、如シ是レ日本内閣ノ諸  
子カ久シク其弊ヲ憂フル所ナリ而シテ今理ヲ以テ之ヲ論スレ  
ハ其憂ノル亦ニ理アリト雖モ實際ニ於テハ行フ可ラサルモノ  
ナリ如何トナレハ實際ニ就テ視レハ或ハ密クニ物品ヲ輸出ス  
ルトアリ或ハ擅權ヲ以テ輸出スルトアリ是乃チ曩キニ英國公  
使ノ許容ヲ以テ長崎港ヨリ石炭ヲ輸出シタルカ如キ、其的例  
ナリ  
日本輸入稅額ハ素ヨリ之ヲ増シテ可ナリ而シテ其増額ハ兎ニ  
角「タオンセン」ド、ハリス下約定シタル所ノ原規ニ復シ尙ホ其約  
目ニ至テハ之ヨリ増加スル所アラント是レ我輩ノ希望スル  
所ナリ

日本國理世經濟論一斑

第一編

過去

現在

未來

昔者日本皇統十六代即神代天皇ノ世ニ當ツテ始メテ日本ニ孔子ノ學ヲ開キシハ播紳士大夫ノ此新教ニ熱心スル者アリテ思ヒラク此民ノ腦裏ニ支那ノ思想ヲ以テ浸潤スレハ將來國家ノ福祉期シテ待ツヘシト於是乎膚淺ノ見ヲ以テ日本固有ノ治教ヲ一掃シ是ニ代フルニ即チ隣邦ノ教法理論學術及々技藝ヲ以テセリ而シテ當時此民ノ智識尚ホ未タ開ケス且ツ其氣質ニ於テハ素ヨリ支那人ト其趣ヲ異ニシタル所アルヲ以テ当初更ニ孔學ノ主趣ヲ解スルヲ能ハスレテ徒ニ此學ニ因循シ其弊ヲ終ニ孔學ノ主義ニ度徑シ以テ外貌皮相ニ流レテ摹擬ヲ是レ事トスルニ至レリ蓋シ此度徑ヲ致セルハ所謂智識ノ未開ナル



ト氣質ノ異同アルヲ以テナリ是故ニ僅ニ此學ノ一班ヲ窺知シテ以為コトク孔學ノ主趣ハ筆ヲ採テ詩賦ヲ推敲シ翰ヲ洒テ文辭ヲ作為セハ即チ足ルモノト妄信シタリ

夫當時此民ノ暗昧ニシテ津ニ迷フヤ此ノ如シ故ニ幾許モナクシテ倫理錯乱人道ノ何物タルヲ弁セサルニ及ヘリ此時ニ當リテ慷慨悲歌ノ修身學士アリテ云ラク嚴冬氷ヲテ大地凍裂シ草木委靡シテ木葉地ニ落ツ此時ニ當テ萬物ノ精氣全ク滅ス然レ氏亦一陽ノ采復スルニ會セハ春風初メテ曠シ旭光亦ヲ解キ百物更新シテ之ニ<sup>秋</sup>スルニ湍目ノ綠ト映顔ノ紅ヲ以テス即チ我日本ニ於ケルモ亦然リ初メ孔學ノ入りシハ其外貌皮相ノミニ戀々羨慕シテ其真理ヲ解マサリシカ故ニ倫理陵夷シ數百年間殆ント維綱ノ滅スルニ及ヘリ然レ氏幸ニ尚ホ未タ我神州ノ元氣湮滅セサリシカ故ニ再々此民ヲシテ方向ヲ轉セシメ我固

有ノ元氣ヲ基礎トナシ之ニ添エルニ孔學ヲ以テセハ我國運ヲ復スルニ足ルト於是乎始メテ日本ノ文明榮乎トシテ萌發シ時昔終カニ其改体倫理ヲ摹擬セシニ止リシト虽氏遂ニ日本固有ノモノ、如クシテ國家ノ幸福威華ハ是ヨリ發生シタリ今ヲ去ル僅々年前日本ノ紳士カ國事ニ執掌シテ政米ノ文明ヲ茲ニ寫サントセシテ恰モ一千五百年代ノ上世ニ支那ノ文明ヲ摹擬セシ時ノ如シ蓋シ當時ノ紳士自ラ思ヒラケ今日ノ急務ハ先ツ田涂ノ汚俗ヲ一洗シ且ツ古采君臣父子男女主従ノ間柄ヲ經倫シタル所ノ故典旧慣ヲモ併セテ之ヲ排掃シ之ニ代フルニ政米ノ典章文物ヲ以テシ苟モ經營ノ道ヲ賤シムカ如キ陋習ハ之ヲ去リ今ヨリ百工ヲ振起シ貿易ヲ隆興スヘシト夫レ今期ノ如ク急進ニ致々タルノ徒々農高工ノ業務ヲ洋法ニ取テ之ヲ張大ニセント欲スト<sup>其</sup>當ルノ人<sup>其</sup>視ルニ業務ノ學

識ノ実地ノ経験曾テ有ルヲナキカ故ヲ以テ當時ハ繁榮ヲナシ  
タル者ノ如シト雖モ幾モナクシテ其産ヲ破レニ及フ者比々皆  
是ナリ故ニ之カ為ニ一時社會ヲ變動シタル所ノ情態想ヒ見ル  
可シ

蓋シ人民一度ニハ急進劇初者ニ誘導セラレテ自家ノ蓄財ヲ出  
シ又幾多ノ時間ヲ費シ以テ此輩ヲ助ケ己レモ亦其新業ニ因リ  
テ利ヲ圖ラント期望セシニ不幸ニシテ忽チ失敗ヲ取リシカ故  
ニ人々狐疑ヲ抱キ西洋ノ業方ハ人民ヲシテ不幸ニ陥ラシムル  
ノ具タルニ過キスト速了シ未タ其真味ヲ熟知スルニ及ハスシ  
テ再ヒ其業ニ着手スルヲ欲セサル而已ナラス初メノ銳意ニ反  
シテ百事ニ不信ヲ抱キ疑念ヲ生シ新業ノ以テ頼ムヘカラサル  
者ト思フニ至レリ故ニ今善講辨ノ士世ニ出ラ此輩ヲ懲懲シテ  
再々斯ル事業ニ從事セシメント欲スルモ蓋シ今日ニワラサル

ナリ抑々此ノ如キ失敗ヲ招キシモノハ其原ハ寡少ノ人カ輕舉  
ニ出タルヲ以テ其責ハ即チ此輩ニ止ルト雖モ若シ夫レ此輩ノ  
輕舉ヨリ不幸ニシテ國家ノ政務工ニ干渉スル所ヲ陳述セシ  
弊ヤ愈々甚レカルヘシ今試ニ其利害ノ干渉スル所ヲ陳述セシ  
ニ夫レ日本ノ開進ニ於ル宜ク漸次ノ變通ヲ以テスヘキ者ナル  
ニ却テ之ニ反對シタル風俗政体ヲ一朝ニシテ全写セシト希望  
シ唯進歩之レ勉メハ急進過激ノ弊ニ陥リ或ハ共和政治ノ自由  
ヲ想像セシメ或ハ此ニ類似シタル政府ノ自由ヲ獲取セント欲  
スルニ至ルヘシ今若シ此ニ想像ヲシテ真ニ然ルカ否マテ詳明セ  
シニ茲ニニツノ國有リ互ニ同等ノ自由國ナリ然レモ各政体異  
ナルハ同一ノ自由國ト看做サルヤ且ツ夫レ人民ノ自由ハ單  
ニ政体ニ因テ起ルモノトセハ英國ノ如キハ自由ナカルヘシ如  
何ナルレハ共和ノ政体ニ非サレハナリ我輩此カ之ヲ史乘ニ徵

レ追論スルニ凡ソ人民ノ自由ハ政府ノ本質如何ニ因ルニ非  
ス唯其政府ノ基ク亦ノ主義ニ因ルモノナリ乃チ英國ヲ看ヨ其  
政府ニ於テヤ中古ノ君主專制政体ノ如ク今尚ホ政教一途ナ  
リ然レモ其民ノ自由ハ彼ノ政教ヲ二途ニ置ク米國共和政治ニ  
譲ルヲナシ今英國ハ如何シテ斯ノ如クナルト向ハ、是外  
ス中古来固有ノ制度慣習ヲ擴充セシメシテ而シテ日本ハ固有ノ  
旧規古風ヲ掃却シテ之ニ代フルニ全ク外國ノ制度慣習ヲ以テ  
セントス蓋シ日本人民中曾テ其非ヲ痛論セルモノ多カリシト  
云フ

夫レ英國ノ自由ハ<sup>マコ</sup>ロソウエルヨリ繼承シタルニ非ス又一千  
六百四十九年ノ共和政治<sup>一第</sup>一十六百四十四年一月英皇<sup>チヤ</sup>レ  
<sup>名</sup>ヨリ<sup>ル</sup>糾<sup>テ</sup>問<sup>テ</sup>受<sup>ケ</sup>テ<sup>テ</sup>死<sup>罪</sup>ニ<sup>判</sup>決<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup>ワ<sup>イ</sup>ト<sup>ハ</sup>ル<sup>ル</sup>宮<sup>殿</sup>ノ<sup>前</sup>ニ  
<sup>胎</sup>胎<sup>シ</sup>タルニ<sup>ニ</sup>非<sup>ス</sup>唯<sup>古</sup>來<sup>王</sup>公<sup>庶</sup>民<sup>ノ</sup>間<sup>ニ</sup>各<sup>其</sup>守<sup>ル</sup>所<sup>アリ</sup>テ

所謂權利義務ノ關係ヨリ生シタルナリ

往古ニ溯リ日本致治ノ要ヲ誓求スルニ大國主<sup>ト</sup>カ天照太神ノ總  
督ニ尋<sup>テ</sup>テ<sup>テ</sup>与<sup>ヘ</sup>シ<sup>キ</sup>一語ノ明言アリ其語簡單ナレモ意味深長  
ナリ蓋シ其予ハ日本ノ國体ヲ示スノ記章ニシテ乃チ後世帝代  
ノ傳遷ニ依テ時々ソノ興章ノ小異ハ生スルヲアルヘシト<sup>虫</sup>モ  
千載ノ下尚ホ國家ノ大本ヲ忘レス其<sup>田</sup>套<sup>ヲ</sup>掃<sup>尽</sup>マ<sup>サル</sup>ニ<sup>於</sup>テ  
ハ大國主<sup>カ</sup>治<sup>定</sup>シ<sup>タル</sup>所<sup>ノ</sup>福<sup>祉</sup>安<sup>寧</sup>ハ<sup>天</sup>地<sup>ト</sup>共<sup>ニ</sup>無<sup>窮</sup>ニ<sup>維</sup>持  
スルヲ得ヘシトノ謂ナリ

因ニ曰ク我茲ニ古事記ヲ引証ス蓋シ古事記ハ日本太古ノ  
紀事ニシテ往昔ヲ詳ニスルハ此書ニ若クモノナレ而シテ  
其記スル所意味深長ニシテ尋常一般ノ載籍ノ比ニ非ス然  
レ之ヲ熟讀玩味セハ日本ノ國体如何ヲ発見スルニ足ル今  
我其要ヲ約シ以テ茲ニ開陳スルヲ左ニシ

抑モ天照太神ノ四海ニ君臨スルニ當ル處出雲國ト云ノ地方ヲ服從メント欲シテ部下ノ勇將經津主武甕雷ノ二人ヲ遣ハス二人命ヲ奉シテ乃チ行ヒテ其地ノ酋長大國主ヲ召シ之ト稱世ニ會ス大國主曰ク吾ニ子事代主及ヒ武見奈方カ異議ナキニ於テハ我直チニ命ヲ奉シテ服從セシムルニ是乎尚ホ大國主ハ君長ヲ以テ逃隣ノ一孤島ニ八重垣ノ城堡ヲ建築スルヲ得ルノ許可ヲ得テ即チ兄ト共ニ服從セリ獨リ弟武見奈方命ヲ奉メシテ王師ニ抵抗セシカトモ終ニ亦之ニ從テ去テモ大國主ハ兄ノ諫言ニ因テ既ニ自己ノ地位ヲ固フレタルカ故ニ其位ヲ子孫ニ繼承シ以テ國土ノ安寧ナル間ハ冥々ノ間ニ隱遁セント欲シ乃チ自カラ思ヒテ我一朝過テ此地ニ兵ヲ奉ケハ許多ノ酋長好ク我ニ附從スルヲ知ルト雖モ今我遁世メントスルニ當リ二子ノ

外政テ亦我命ヲ奉スルモノナレト於是大國主ハ尋鋒ヲ以テ天照太神ノ總督ニ捧ケテ曰ク我此鋒ヲ以テ四海ヲ既定シ遂ニ治功アリ故ニ天照太神ノ曾孫彥火瓊杵尊カ此國ヲ治ムルニモ亦等シク此鋒ヲ以テモハ到ル處風靡シ忽チ國土安寧ナルヘシ如何トナレハ今我此鋒ヲ以テ天孫ニ奉呈シタルヲ諸民知ラハ皆チ懾服スルヲアレハナリ而シテ我天照太神ノ曾孫カ此現世間ニ照臨モテ國土ノ安寧ナラント切望スト虫氏然モ我尚ホ幽暝ノ中ニアリテ俱ニカヲ併セテ守護スル所アラント言ヒ終リテ後岐神道經ノ管轄ナリヲ總督ノ前ニ聘シテ亦曰ク我冥々ノ中ニ在リテ國土ノ安寧ヲ守護ス是ヲ以テ現世ニ於テ今ヨリ我ニ代ツテ足下ヲ引導スルモノハ此二名ノ岐神是ナリト言未タ終ラサルニ忽チ去テ跡ナレ叔經津主武甕雷ハ岐神ヲ教導ト

義  
介

為レ四方ヲ經歷シ恩澤ヲ普ネクシテ後復命セリ  
我軍日本開闢ノ元始ヨリ追論シ来レハ後世ノ侯公伯士ノ  
地位ヲ變換左右スルノ權理ハ即チ皇統連綿ノ天爵ノ權利  
ニ胎胎胎スルヤ此書ニ因テ歷々徵スルニ足ル也而シテ書中  
記載スル所ノ尋鋒トハ長ヤ一尋ノ鎗ニシテ大國主カ蓋宇  
ヲ戡定シタル所常ニ杖ツク所ト云フ又之ヲ呼シテ楸  
鋒ト云フハ楸則チ神木ヲ以テ其柄長尋ヲ作リシ所以ナリ  
而シテ此鋒ハ天照太神ノ曾孫ヨリ景行天皇ノ世マテ皇居  
ニ秘藏セシカ偶ニ東國十二道ノ魑魅ノ狄人王化ニ服セリ  
ルヲ以テ乃チ日本武尊ヲ遣テ之ヲ征服セシムル所此鋒ヲ  
以テ尊ニ賜ヒシカ尊ハ之ヲ天照太神ニ獻レ為ニ叢雲劍ヲ  
請ヒ得タリ此時日本武尊ハ錦囊ヲ以テ此鋒ヲ封包シハ尋  
ノ將殿ヲ造營シ以テ之ヲ拜祀シタリ尚ホ詳細ハ大日本開

關由來記ヲ見ルヘシ

中古來文明國ニ於ル人民ノ自由ハ國會或ハ民會ニ胎胎胎スト思  
フノ輩ナレト云フ可カラス何ソ其惑ヘルノ甚レキヤ看ヨ佛  
蘭西ニ於テ一千七百九十二年ニ王族及々貴族ヲ廢シ強ヒテ全  
國ノ民ヲシテ同輩ナラシメテ共和政治ノ政体ヲ寫セシモ畢竟  
此誤見ニ出タルモノナリ蓋シ久シク君主政治ノ下ニ薰陶セラ  
レタル人民ヲシテ共和政治ノ下ニ置カシメタルハ其人民ノ性  
質ニ悖戾スル所アルカ故ニ其外貌ハ恰モ彼ノ羅馬ノ共和政治  
ニ似タレ氏其實ハ羅馬ノ如ク公共ノ自由ヲ勸励誘掖シテ之ヲ  
振起スル下能ハス又米國ノ人民ノ如ク建國ノ初ヨリ其頭腦ニ  
深染シタル所ノ自由ニ基キ國是ヲ定メシモノト同日ノ論ニア  
ラス唯一朝自由ノ仮面ヲ造為セシノミニシテ君主政治ト共和  
政治ト其軒輊如何ヲ問ハ、總カニ專制獨擅ノ權カラシテ彼ヨ

リ此ニ移轉マシメタル而已  
凡ソ國ハト云ヒ亦一人ト云ヒ各其慣習馴致スル所アリテ之ヲ  
変スルト極メテ難シトス故ニ仮令ヒ之ヲ変シタリト雖モ馬ク  
シソ旧規ニ復スルニ於テ何ノ難キトカ是有リトセンヤ試ニ思  
ヘ佛國ハ共和政治ノ政体ヲ摹擬シ以テ自由ヲ得ント試ミ  
ト雖モ終ニ亦君主政治ニ復セリ而シテ當時ノ國權ハ暴戾ノ人  
ニ掌握モラル、所トナリ其名ハ國會ナリト雖モ其実ハ豺狼ノ  
社會ナリレカ故ニ其人民ハ一時忍フ可カラサル暴虐ヲ蒙ムレ  
リ然レモ英國ノ如キハ徒ニ皮相ニ懲々セズ決シテ其旧套ヲ全  
廢マス又其國体ヲ変セス(コトヲ除キ)真正ノ自由ヲ揮舞スル  
ニ至レリ之ヲ要スルニ佛國ノ如ク過激ニ人民掌握ノ政体ヲ造  
為マス徐ニ民権ノ主義ヲ確定シタルモノナリ然リ而シテ民権  
ノ主義ハ日本ニ於テモ亦既ニ數百年前ヨリ固有セサルニアラ

ス乃チ徳川ノ祖家康カ遺訓第十六篇ニ云ヘルアリ曰ク民ハ國  
ノ本ノナリト是レソ即チ民権ノ主義ト云フヘシ苟モ民ナクン  
ハ政府立テアタハサルハ必然ノ理ナリ而シテ當時日本ノ政治  
ニ於ル之ヲ他國ニ施サハ殆ント自由ナキカ如シト雖モ之ヲ佛  
國ニ以スレハ其人民ニ自由アルト一ニシテ足ラス  
夫レ今ニ至ルマテ佛蘭西其他各國ニ時々行ハレタル種々ノ政  
体ヲ看ルニ一トシテ末路ニ弊害ヲ生セサルモノナシ(現ニ其國  
ト見ユル政体  
ハ指テ論セズ)而シテ其弊害タルヤ素ト政体ニ欠ク所アルヲ以  
テ生スルニ非ス唯其政体ノ本原タル主義ニ乖戾スル所アルヲ  
以テ然リトス而シテ其政体異ナレハ隨テ亦其本原タル主義ノ  
異ナルハ論ヲ待タスト雖モ實際ニ就テ之ヲ視レハ更ニ其別ヲ  
見サレハ如シ然レモ理ヲ以テ之ヲ論スレハ其別判然タリ今之  
ヲ例マハ米國ノ政体ニ於テハ人民皆同等ナリ米國憲法第一  
章ニ明文アリ又

之ニ反レテ支那ノ政体ハ人民ノ等級ヲ嚴 區別ス而シテ二國  
政体ノ意義ノ異ナルヲ斯ノ如ク明ラカト雖モ詳カニ二國ノ  
形状如何ヲ察スレハ實際果シテ其主義ニ差異アルヲ見ス如何  
トナレハ支那ニハ天子アリテ四百餘州ニ君臨シ無限ノ権カヲ  
握リ貴重ノ責任ヲ帶ヒ國政ヲ專制スルト雖モ若シ一朝人望ヲ  
失ヒ民心離叛セハ宗族一舉ニ滅亡シ民ノ好ハモノ興テ民ノ惡  
ムモノ亡フ是レ二十四朝ノ真ニ代替アル所以ナリ又米國ヲ看  
ヨ一人ノ大統領アリ民望ニ依テ撰挙セラレ行政ノ権ヲ握リ貴  
重ノ責任ヲ負ヒ聯邦ノ政ヲ統轄スル一恰モ支那ノ天子ニ於ル  
カ如シ而シテ支那ニ公侯伯アリ大臣アリ百官アリ博士アリテ  
或ハ其封爵ニ安慰スルモノアリ或ハ其大名ヲ樂ムモノアリテ  
各其觀望ヲ維キ之ヲ遠ク世襲セント欲スト雖モ豈ニ悉ク之レ  
ヲ得ルモノナランヤ多クハ芑苴過失ノ為ニ其封爵榮名ヲ失フ

モアリ然レハ則チ其榮達タルヤ僅ニ名望ヲ維持シ得ル時限而  
已ニシテ一旦之ヲ失ハハ失脚ヲ免カレス而シテ米國ニ於ケル  
モ亦然リ公司顯官アリ豪戶富門アリテ或ハ其権カヲ特ニ或ハ  
其富財ヲ樂ミ各永ク之ヲ維持セ<sup>持</sup>ント欲スト雖モ一朝不慮ノ禍  
ニ罹ルカ又ハ一時ノ失錯ヲ為サハ権カモ富財モ之ヲ烏有ニ附  
スルノ患アリ看ヨ二國社會ノ形状ニ於テモ互ニ相類似スル此  
ノ如キヲ

凡ソ此世上ニ二國相均シキ所ノ政体ヲ以テ政府ヲ立シモノ幾  
ント稀ナリ若シ縱令ニ是レアルモ乙甲ニ效ヒ甲乙ヲ写セシモ  
ノニ非ス類似ハ互ニ偶然ニ出タルモノナリ而シテ其類似ノ原  
由ヲ尋ヌルニ凡テ善良政府ノ由テ立ツヘキ道ノ本原即チ致治  
ノ要旨ニ於テハ皆相同シキカ故ナリ之ヲ詳言セハ外形異ニシ  
テ其精神ハ一ナリト云フカ如シ蓋シ其要旨ニ於ル地球上ニ棲

息スル所ノ人々ヲ皆同権同等ナラシメント欲スト虫氏豈ニ夫  
レ得入アヤ支那ノ理学ナル易ニ云ク天ノ澤タルヘカラス澤  
ノ天タルヘカラサルカ如ク上下各々其分アリトハ蓋シ天ハ上  
ナリ澤ハ下ナリ人類ニ上下貴賤ノ別アルハ恰モ天ト澤トノ別  
アルカ如ク天理ニ出テタルヲ云フナリ今若シ斯ル條理ヲ推究  
セントセハ此要旨ヲ明解スルモノ枚擧ニ暇アラズ  
然リ而シテ凡ソ人間社會ハ好善避惡ノ性ヲ以テ組織セラレタル  
モノナリ然レモ此性ヲ擴充全美ナラシムルハ人々唯蜂屯蟻聚  
スルノミニテ能クスル者ニ非ス是レ社會ノ組織ハ造化ノ主宰  
ニ成ル所以ニシテ天地间ノ萬物一トシテ造化ノ精工ニ出サル  
モノナレトモ虫氏決シテ皆同等ノモノニ非カルナリ彼令ハ人ハ  
一大製造所若クハ一大社會ノ社負ノ如ク各負天賦ノ性質ニ從  
テ各種ノ事業ニ就キ生涯ノ業ヲ営ムカ如シ是ヲ以テ之ヲ觀レ

ハ人ノ此立ニ在ルヤ自カラ亦人ヲ屬下ニ使役シ己レヲ用ニ供  
レ得ルノ權利ヲ有スルニ非スハ恐ラクハ社會ヲ保ツ能ハサ  
ルヘシ是故ニ世工ノ人々ヲシテ若シ皆同等ノ位置ヲ占メ同一  
ノ権理ヲ有シ同量ノ貧福ヲ保タシメントノ主義ヲ普ク世間ニ  
施カントセハ争鬪止ム時ナク終ニ全社會ヲ壞滅スルニ至ルヘ  
シ之ヲ要スルニ君主及ビ貴族ノ存在スル國ニ於テ強クテ此二  
者ヲ廢却シ遂ニ祖先傳來ノ富者カ財ヲモ人々皆平均ニセント  
スルカ如シ尚ホ迄ク譬ヲ取ラハ婦女ハ天性ニ於テ男子ニ劣ル  
モノナレモ之ヲ同権同等ナラシメントスルカ如シ今ヲ去ル五  
年前佛國コンレユウシ黨ノ争亂ニ於ルカ如キ即チ殷鑒トスル  
ニ足ルナリ  
抑モ此平均說ノ主義ヲ主張セハ人ニ賢愚ノ別アルヲ不公平  
トスヘシ或ハ人々ノ勤惰ヨリ生スル所ノ利益又ハ其権カニ多

歳首



寡アルモ亦不公卒ト云フノ妄論ニ及フヘレ是レ平均説ヲ實際ニ施スル能ハサル所以ナリ且ツ此社會中ノ人々ク同等ナル能ハサルハ萬國ノ情勢ヲ見テ之ヲ証スルニ足ル乃チ支那ノ如キ上下ノ分嚴ニシテ之レカ明文アリ又米國ノ如キハ其明文ナシト雖モ恰モ支那ノ况情ニ異ナラス今若シ此二國ヲシテ其不平均ナル所ヲ察壞シ強テ平等ヲ求メント欲セハ豈ニ須臾モ社會ヲ保テ得ヘケンヤ

現ニ支那國ニ上下貴賤ノ別アルハ伏羲氏ノ説ニ胚胎ス其語ニ曰ク國家寔上ノ位ハ賢者之ヲ占有セシムルハアル可カラスト是レ今日支那ノ人民中自カラ賢愚ヲ分テ貴賤上下ノ別ヲ致セル所以ナリ米國ノ人民ク貧富ニ依テ半級ヲ分ツカ如シ夫レ賢者位ニ在リ民ヲ導クニ善ヲ以テシ之ニ教ユルニ道ヲ以テセハ下民ヲシテ幸福ヲ保全セシムルヲ論ヲ待ス而シテ此主義ヲ擴充シ以テ長ク政治ノ要

領トスルニ當テ人民ノ不平等ナルモノハ支那ニ大益ヲ与ヘタリ然リト雖モ此國漸ク衰運ニ趣クニ随ヒ不平等ノ主義ハ却テ在上ノ君子ヲシテ私利ヲ圖ラシムル具トナリタルカエヘ之カ為ニ生民塗炭ニ苦シムノ大害ヲ釀セリ米國ニ於ケルモ亦之ニ等シキ覆轍アリ乃チ在昔歐人ノ落流漂シテ偶々米國ニ来リ足ラ此地ニ止ルニ當リ忽チアメリカ土人ト戦ヒ之ニ勝テリト雖モ尚ホ危險アリレカエヘ今ハ防禦ノ為ニ各人同盟シテ社會ヲ結ビ緩急相救ハントセリ是レ素ヨリ同心協勦ヲ以テ其公益ヲ圖ルニ出タリト雖モ人々強弱勤惰ノ差アルヲ以テ識ラズ知ラス社會ノ間ニ不平等ヲ生シ之レカメニ各負相競テ社會ノ大利ヲ起シタリ而シテ歲月ノ久シキ各自ノ需要漸ク足リ内寇ノ患モ亦漸ク消滅スルニ及シテ曩キニ公共ノ利益ヲ圖ラント欲シタル思念モ轉々變遷シテ私慾ノ念トナリ人々私利ヲ先トシ

甚レキハ他ヲ壓倒シテ己レヲ固ラントスルニ至レリ要スルニ  
曩キノ同心協勅ハ一変シテ競争トナリ再変シテ軋轢ノ弊ヲ醸  
セリ是ヲ以テ之ヲ觀レハ支那及ヒ米國ノ政体ノ本原ハ則チ共  
公ノ利ヲ圖ルニ出タルト虽モ因襲ノ久シキ終ニ慘毒ヲ流スノ  
媒トナルニ至レリ然リト虽モ弊害ノ因テ起ル所ヲ尋ヌレハ元  
采ノ政体ニ害アワテ然ルモノニアラス唯後世政体ノ主義ヲ失  
フヨリ此害ヲ醸生セル而已故ニ其本原タル主義ヲ誤ラズンハ  
能ク邦家ノ幸福ヲ來タレ千歳不易ノ良具タルニ足ル是ヲ以テ  
苟シクモ政体ノ主義ヲ失ヒ法制上ニ大害ヲ現出シタリト認メ  
ハ当路ノ施政者ハ頃ク其弊ヲ矯正シ其根ヲ絶ツノ方略ヲ運サ  
ズンバアル可カラス而レテ其術ヲ施スニ当テヤ何程逼迫ノ場  
合ナルトモ戒慎注意ヲ加ヘズンハアル可カラス如何トナレハ  
若シ然ラズレテ徒ニ急進セハ却テ政体ノ主義ヲ過マルノ恐レ

アレハナリ且ツ一旦之ヲ過ツテ過激ノ措置アラハ當ニ徒勞ニ  
歸スル而已ナラス社會ノ機關ヲ毀傷シ終ニ其損害ヲ補贖スル  
一能ハサルニ至レハナリ然レモ今若シ其主義ヲ過ラサルニ於テ  
ハ愈國家ノ幸福ト隆盛ヲ來スヘシ就中國家ノ無事安寧ノミヲ  
要スルノ國ニ在リテハ然リトス  
凡ソ萬物中竅モ簡易ニ組織シタル機關ヲ有スル動物ノ如キハ  
能ク疾病其他ノ憂ヲ防クト虽モ人身ノ如ク其機關精妙ナルモ  
ノハ然ラス若シ其慣習上少シク旧ヲ改メシムルトアラハ之カ  
為ニ或ハ病ヲ發シテ死ニ至ルトアルヘシ即チ文明ノ質ニ於ル  
モ亦然リトス蓋シ其實タルヤ極メテ緻密微細ノモノニシテ実  
ニ百事ニ感レ易シ之ヲ詳言セハ其組織極メテ軟弱ニシテ此少  
ノ震動以テ之ヲ感應セシムルニ足ル今之ヲ例セハ米佛ノ如キ  
國ニ於テ若シ其政府ヲシテ僅々八日間廢滅セシメハ其損害則

ルヘカラスレテ一周日ヲ出ス鏡路断ヘ高旅行カス且ツ諸業ニ  
元入レシタル資本ノ利足ヲ失フノミニテモ一國ノ富源ヲ害ス  
ルト少カラス是感應ノ英敏ナル所以ナリ而シテ昔ノ文明ノ  
感應ニ鈍ナル所以ハ未タ其組織ノ緻密微細ナラサルカ故ト知  
ルヘシ故ニ今日ノ西州ノ文明ヲ採擷セシト欲セハ先ツ其質ノ  
極メテ軟弱ナルヲ知了シ然ル後其本音ト体面トヲ毀傷スル  
ナク之ヲ保守スルニ非ヤレハ文明ノ用ヲナサス尚ホ一步ヲ進  
メテ之ヲ論セハ文明ノ組織ノ機関ヲ明解シ之カ運轉ノ術如何  
ヲ熟知スルニアラスンハ文明ノ用ヲナサス而シテ其組織ノ精  
妙ヲ知り其運轉ノ術如何ヲ學ハント要セハ耐忍注意及々時限  
ノ三者ナラサル可カラサル也  
今ヲ去ル七十七年前佛國ニ於テ羅馬共和政體ノ政體ヲ写レ却  
テ之カ為メニ擾亂ヲ醸マシモノハ畢竟文明ノ質性ヲ傷害セシ

ヲ以テナリ之ニ反レテ此際ニ於テ英國ハ外貌ニ變々セシテ  
國家旺盛ノ基礎ヲ鞏固ナラシメタルハ文明ノ機関ヲ巧ニ調  
理シタルモノト云フヘシ而シテ支那及ヒ米國ノ如キハ漸ク文  
明ノ要旨ヲ失ヒ既ニ今日其榮ノ萌芽ヲ醸生セリ是ヲ以テ早ク  
之カ矯正ノ術ヲ施サレハ恐ラクハ支那ハ終ニ其衰亡ヲ来ス  
ヘシ又米國ハ文明ノ進歩ニ多少ノ妨碍ヲ起スヘシ  
説ヲ為スモノアリ曰ク日本ノ情態ハ歐洲ト異ナル所アルカ故  
ニ歐洲ノ文明ヲ以テ龜鑒ト為ス丁能ハスト夫レ然リ豈夫レ然  
ランヤ嘗テモトインテイシ氏千二百年代ノ佛國ノ理學者云ヘル有リ曰ク古今  
萬國人相同シト我輩今此格言ト其他萬世不易ノ理トヲ以テ追  
論セハ文明ノ要旨ニ至テハ二ナシ故ニ日本ノ文明ト強ク取テ  
萬國ト異ナル所ナシ是ヲ以テ之ヲ觀レハ何ヲ歐洲ノ文明ヲ以  
テ龜鑒ト為スヲ不可トスルノ理アラシマ

論者又曰ク日本ハ同等ノ人々カ糾合シテ一体ヲ成シタルノ國  
ナリト是レ亦日本ノ情態ヲ詳カニセサルモノト云フ可シ今試  
ニ日本上世ニ溯リテ之ヲ論スルニ二千有餘年ノ昔ニ建國開祖  
ノ神武天皇カ其國是ヲ確定セシキ治者ト被治者ノ別分レテ判  
然タルヲ見レハ豈同等ノ人々カ糾合シテ一國ヲ成シタルモノ  
ト看做スヘケンヤ蓋シ神武天皇ノ起ルヤ東伐西征到ル處風靡  
シテ遂ニ治平ノ創業ヲ果タシ許多ノ酋長ヲ抑壓シ天皇自カラ  
之ヲ統轄セリ是一國ノ中心カニシテ苟シタモ之ヲ弛廢セハ亦  
諸族ヲ連結スルヲ能ハサルモノニ如シ然リ而シテ今時日本ノ  
形勢ニ於ケル及相ノ連結ヲ免カレサル所アリ乃チ薩長土肥ノ  
如キハ各一塊ヲ為シテ偏ニ一箇ノ利ヲ圖リ敢テ亦共同ノ利益  
ニ關係ナキカ如キ是レナリ蓋シ曩キニ政府茲ニ見アリテ此等  
ノ人民ヲシテ連結一致セシメント欲シタリト蓋シ中道ニシテ

破壊セリ然レハ時機已ニ至リ政府ハ之レカ事業ニ著手セリ故  
ニ日ナラスレテ其功ヲ見ルヤ疑團ナシ而シテ改革全ク成ノ日  
マテハ尚ホ旧制ヲ存マサルヘカテサル也  
今若シ日本ヲシテ支那ノ如ク境土廣大ニシテ各州割拠ノ勢ア  
リテ統轄シ難キ邦タラシメハ以テニ陳述スル中央集權ノ旧制  
ハ敢テ要メサルヘシ如何トナレハ日本人民ハ常ニ獨立ノ氣風  
此氣風全國ノ為ニ一致スルモ又ハ分ヲ帶ヒ之ニ加フルニ地ノ  
離シテ一地方ノ為メニ一致スルトモヲ帶ヒ之ニ加フルニ地ノ  
利宜シキヲ以テ倭令ニ外患アルモ防クニタレハナリ然レモ日  
本ハ支那ノ如ク廣漢ノ大地ニ非スレテ數箇ノ島嶼ナルカ故ニ  
防禦ノ術大ニ難シ是レ日本國ヲ保守スルハ一君主一政府ヲ以  
テ統轄スルニ如クモノ所以ナリ  
倭令ニ日本ハ永ク弱國ニ留マルト蓋シ外寇ノ患ナレト云フハ  
愚論ナリ蓋シ外寇ノ攻米ニ在ラサルハ素ヨリ論ヲ待タス只顧

慮スヘキハ近傍二三ノ國而已其一ハ魯西亞是ナリ彼レ日本ニ  
新眠スト虽其禍心ヲ包蔵スル封豕長蛇當ナラス又其一ハ朝  
鮮是ナリ蓋シ朝鮮ハ一小國ニシテ意トスルニ足ラスト虽氏若  
レ異日此國ニ道ヲ依リテ支那ヲ攻侵スル國アラハ左顧シテ日  
本ヲ覬覦スルノ恐アレハナリ又其一ハ支那是ナリ蓋シ今日ノ  
形状ニテハ素ヨリ憂フルニ足ラスト虽氏若レ一朝蘇生シテ其  
國ノ耳目ヲ改ムルニ及ハ、空シク着眼スヘシ但言フ彼レ蘇生  
ヲ為スニ當テヤ幾多ノ時日ヲ費ヤレ且ツ英主良弼ヲ出スニ非  
スレハ殆ント難カルヘシト虽モ亦後ニ目下ノ衰運ヲ見テ忽ニ  
スル所ニアラス今ノ清朝ハ殆ント二百有五十年ノ永キヲ保続  
ス是中世<sup>咸</sup>ハ近世ニ稀レナル所ノ永續ト云ヘシ是ヲ以テ一朝  
支那ラシテ振<sup>興</sup>与セシムル所アラシメハ日本ノ安危ニ係ルハ必  
然ノ勢ナルカ故ニ豫シメ之カ倫ヲナシ早ク致治勸業強兵ノ基

ヲ固フスルニ非スレハ或ハ防禦ノ力足ラサルヘシ蓋シ支那ハ  
大國ニシテ加之巨大ノ財源ヲ有スルカ故ヲ以テ現時ノ萎靡ヲ  
補贖スルニ餘アリ而シテ大國ナレハ隨テ人口多ク財源大ナレ  
ハ隨テ國力強シ是レ用兵ノ法ニ於テ特ム所大ナリト云フヘシ  
況ンヤ彼レ一朝一ノ忽必烈ヲ出スニ於テヤヤ  
因ニ曰ク後宇多天皇ノ世ニ當テ元ノ太祖奇握忽必烈日本  
ニ師ヲ出ス偶々大風西海ニ起リ之カ為ニ挫折セラレテ總  
カニ日本ハ虎口ヲ適レタリ然レ氏彼レ四方ニ師ヲ出シ北  
ハ魯國ヨリ日本海マテノ地ヲ畧定シ一時勢<sup>熾</sup>熾シナリ而  
シテ彼レ在位千二百七十九年ヨリ千二百九十五年マテナ  
リ  
結局日本ニ於テ今日ノ急務ハ富源ヲ開キ貿易ヲ盛ニシ尚ホ陸  
海軍ノカヲ固フスルニ若クナレ而シテ之レカ成功ヲ要スルハ

立帝政府ノ政体ヲ至善トナシ共和政府ノ如キハ至惡中ノ惡ト  
ナス試ニ民治國ニ就テ其為セル所ヲ視レハ彼ノ民撰公舉法ノ  
如キハ政府ヲシテ決シテ有カナラシムルモノニ非ス蓋シ民撰  
ヲ以テ官吏ヲ採扱セハ人々再舉セラレサルノ恐ヲ抱キ動モス  
レハ人心卑屈ニ沈ミテ氣節ヲ失ヒ一身ヲ圖ルニ汲々トシテ敢  
テ國家ノ公益ヲ思フノ輩ナキニ至ルカ故ニ所謂私利ト抵牾ス  
スル事アリ乃チ米國ノ如キハ民撰公舉海陸軍ノ如何トナレハ若シ  
之ヲ用ヒタルモノトセハ兵ニ練磨老成ノ功ナク方ニ於テ將帥  
技尉ト強ク常人ノ代理タルニ過キサルナリ

ク其弊害ヲ覺悟スルニ至レリ之ヲ例セハ裁判官撰舉ノ如キ其  
弊ノ一ナリ蓋シ新約克ノ如キ大都會ニ在リテハ其弊極メテ甚ク人ヲ  
可ラス就中外事務官撰舉法ノ如キハ其弊極メテ甚ク人ヲ  
シテ一目其弊ヲ知ラシムルニ至レリ前ノ大統領セ子ラルグラ  
シドハ其弊ヲ悟リ深ク之ヲ患ヒ銳意シテ帝治政府ノ主義ヲ藉

リ以テ今ノ政度ヲ改革セントシタリ  
抑モ米國ハ地方廣大ニシテ加之地ノ利ヲ占有シタルヲ以テ敢  
テ外患ノ虞ナレ而シテ法律定制ノ一ハ人民自カラ之ヲ為シ得  
ルカ故ニ官吏ノ職務太タ簡ニシテ乃チ租稅ヲ收徵シ驛遞ノ事  
ヲ調理シ法制ヲ頒布セハ殆ント政務終ル而已要スルニ米國ノ  
如キハ有力ノ政府ヲ要セサル所以也  
然リ而シテ日本人民ノ如キハ數千年来只命惟從ノ慣習ニ涵養  
セラレテ目下日用ノ需用ヲ供給スルニ汲々トシテ其他ニ幾シ  
ト注意スル所ナシ然ルニ一朝農工高ノ事業ヲ更新シ理財立法  
行政ノ道ヲ改革シ異日萬國ノ魁トナリテ地球上ニ光華ヲ輝發  
セント欲スル着眼アリテ之ヲ方略ヲ施サントスルニ於テハ豈  
米國ノ如キ國民同等ノ國ト曰フ同ラシテ論ス可ケンヤ  
今日本ヲシテ斯ノ如キ遠略ヲ遂ケシメンニハ恰モ其政府ヲシ

テ一ノ活潑ナル人体ノ如クナラシメサル可ラス要スルニ人傑  
ヲ拔擢シテ國家ノ精神トナシ以テ國力ヲ増養スル所以ナリ而  
シテ若シ其精神タルヘキモノ其任ニ堪ヘサルハ素ヨリ之ヲ  
免黜スヘシ且ツ其人負ノ如キハ極メテ寡少ナルヲ要ス而シテ  
施政ノ目途ハ務メテ人民ヲシテ自治ノ精神ヲ養成セシムルニ  
在リ是レ即チ實善政府ヲ立定スル所以ニシテ善後ノ得策タル  
ヤ疑ヒナレ

抑モ日本ノ文明ノ由テ起リシ所ハ僅々二三ノ貴族カ壓制ヲ施  
セシヲ以テナリ而シテ之ヲ保續セシモ亦此輩ノカニ因ル然リ  
而シテ日本ハ昔ヨリ報國廉恥義務ノ三者ヲ以テ治民ノ要トセ  
リ蓋シ其民ヲシテ依ル所ナカラシメハ此三者陵夷ヲ致スト云  
フ就中農商ノ民ニ至テハ暗昧ニシテ未タ自國ノ政体ノ何物ヲ  
ルヲ辨マス是故ニ英俊上ニ在リテ國家ノ精神トナリ以テ之ヲ

統御スルヲナクシハ國家ヲ萬世ニ保守スルヲ能ハサルヘシ而  
シテ國榮ヲ萬世ニ保續スルハ帝系一統ノ國是ニ若クモノナレ  
如何トナレハ帝室ノ命脈ヲ以テ國家ノ運命ニ繫係セハ則チ後  
来ノ國榮ヲ圖ルニ實上ノ國是タレハナリ

(以下續出)





